



# GOOD NEWS とぎのこえ

# War Cry

4月号

福音版  
2023  
April  
No.2850

二〇二三年 四月一日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行 (除く七月)

## 固い殻を破って

藤井 千明

春は引越しのシーズンですが、私も何度となく住まいが変わり、持ち歩くよ

うになった植物の一つに、赤芽ねこやなぎがあります。二〇一一年二月に実家の



母が枝を切り取って持たせてくれたものを、教会の高壇に、ガラスの花瓶にぎつくりと挿して飾ったのが始まりです。初めは枝に規則的に並んで付いているだけの赤茶色い固い蕾でした。

手入れもせず置いておくだけで、少しずつ膨らんできて観葉植物のように楽しめました。そのうちに固い殻が割れて、中からビロードのような銀白色の毛が見えるようになりました。ネコのしっぽを思わせるような花穂が満開になると、床には黄色い花粉が敷き詰めるようになりました。厄介なお掃除の仕事が増えたのでそろそろ片付けようと思

い、花瓶に手をかけて驚きました。水を吸いきった白い根がびっしりと花瓶の中を埋め尽くしていたのです。それ以来もう十二年が経ちますが、地面に植え付けたり鉢植えにしたり、たくさんさんの思い出と命がみなぎる愛おしい植物となっています。

旧約聖書の詩篇一一〇篇七節に、「主は道の傍らで、流れから水を飲まれる。こうしてその頭を高く上げられる」(新改訳聖書二〇一七)とあります。

主イエス・キリストは、人類の罪を贖うために、その尊い命を十字架の上に差し出し、命絶えて横たわり墓に葬られました。しかし、三日目に甦られ、釘痕の残る手を広げ、信じる者は幸いです。この詩篇に表現されているように、倒れたそのところから命の水を受けて復活され、新しいお姿をもって人に現れ、永遠の命を高く示してくださいました。

また、イザヤ書四三章一、四節には、「あなたを造られた主は今、こう言われる。恐れるな、わたしはあなたを贖う。あなたはわたしのもの。わたしはあなたの名を呼ぶ。水の中を通るときも、わたしはあなたと共にいる。大河の中を通っても、あなたは押し流されない。火の中を歩いても、焼かれず炎はあなたに燃えつかない。わたしは主、あなたを神、イスラエルの聖なる神、あなたの救い主。……わたしの目にあなたは価値高く、貴く、わたしはあなたを愛し……」とあります。

四月は新しい喜びにあふれる季節でもあります。また種々の転機となる次の

シーズンへと移される変わり目でもあります。ハラハラドキドキする経験や、期待に反して心傷める経験に遭遇することもあろう。しかし、今のところから切り取られ、新たな場所へと移されたとしても、あなたが望むなら、すぐ傍らにある流れから水を汲んで飲むことができるのです。そしてがんじがらめになっている固い殻を破って成長し、囚われているものから解放され自由とされる、永遠の命を得ることができるとです。神様からの大きな祝福に与ることのできるま

たとな機会となるのです。イースター(復活祭)は、数年前までは、キリスト教国のお祭りのように思われていましたが、最近ではこの季節になると日本においても、大型娯楽施設でイベントが催され、卵やウサギの装飾品が飾られ、様々なお菓子も店頭に並ぶようになりまし。イースターは、イエス・キリストの復活を祝うお祭りです」と説明書きを見ることがあります。この言葉があなたにも届き、喜びを共にするイースターとなりますよう、お祈りいたします。

(救世軍士官(伝道者))

クリスチャンとして信仰をもって生きる中で、神が生きて働いておられることを経験します。その体験を分かち合うのが証言です。この春、救世軍士官（伝道者）に任官される吉田慎也さんへのインタビュー、また、信仰生活を長く重ねておられる生井富美子さんの証言をお届けします。

【インタビュー】

# 神様に頼り、お従いして歩む



救世軍士官 吉田慎也さん

——いよいよ救世軍士官としての歩みが始まりますが、今の気持ちをお聞かせください。

私を、生涯を<sup>なげ</sup>かけて伝道する救世軍士官になるよう導いてくださったのは神様です。救世軍天満小隊（教会にあたる）に通うよう導かれて信仰生活を送りました。そして、神様にお従いした結果、士官学校（士官を養成す

る二年制の学校。神学校に相当する東京・杉並区和田に所在）に入校しましたが、献身を決意した当時は賛成してくださった方も反対する方もありました。しかし、たくさんの方が祈りをもって私を支えてくださり、神様が祈りに応えてくださった結果として任官の時を迎えることができたと思ひ、感謝しています。

——士官学校での訓練の中で、何が一番大変でしたか。

入校して間もない時、ある教官から「これをしなさい」と言われて作業していると、別の教官から「これは必要ない」と中止を指示され、やらないでいると最初の教官から「なぜやっていないのか」と注意されたことがあります。そういうことが週に三回ほどあったのでフラフラになってしまったのが一番大変でした。

——それは大変でしたね。逆に二年間で何が一番すばらしかったですか。

二〇二一年の夏期訓練（候補生が小隊に二カ月間派遣され、実地に訓練を受ける）で北海道の遠軽小隊に遣わされました。そこで神様から「祈り」というテーマを非常に明確に示される体験をしました。私の大叔母と曾祖父が牧師であったと初めて知らされたこと、また、間違ひなく神様からの示しだと確信させられる出来事が続げざまに起きたのです。それは人間が考えた計画をはるかに超えた神様のご計画としか思えない経験でした。（この経験については『ときのかえ』二〇二一年初冬号8ページをご覧ください）

——二年間の訓練を通してどのように変わったと思いますか。

先ほどお話ししたように最初はフラフラになることもあったのですが、それは自分の側にも勝手な思い込みがあったのだと思います。今はまず神様に頼って、祈って、お従いしていこうと考えるようになりました。もちろん、そう思っている人も人に期待してしまうところもあります。しかし、自分でどうにかしようと思くと、結局むなしさしか残らないとわかりました。でするので、完全に神様により頼むことを心がけています。

——同じように神様に生涯を献げたいと思っている方々に励ましの言葉をいただけますか。

神様に生涯を献げたいと感じているのであれば、すぐ行動に移すべきだと思います。少し無責任な言い方になるかもしれませんが、行動に移せば神様が必ず良いようにしてください。考え始めたらあれもこれも足りないいきりがあります。若い人なら結婚の問題

もあるかもしれませんが、本当に結婚が必要なら後から神様が与えてくださると思います。

——最後に『ときのかえ』の読者に、自分のために祈ってほしいことをお知らせてください。

これからどこに遣わされるかわかりませんが、どこに行っても神様のために力を尽くすことができるよう、また、遣わされた場所で人につきまづきを与えない働きができるよう、祈っていただけました。

——ありがとうございます。

ありがとうございます。



Happy Easter

2021年の夏期訓練、遠軽小隊の皆様と



〔寄稿〕

# 病の苦しみを通して



救世軍士官 生井 富美子 さん

私が神様を信じてクリスチャンになり五十四年が経ちます。長い信仰生活の中でこのような経験もするのですね。

三年前、新型コロナウイルス感染者が急増する中、小隊へも行けない、外出もままならない自粛生活になり、私の生活習慣が一変しました。初めはじつくり聖書を読もう、信仰の書も、と考えていました。

六月に入ると暑さが続き、過ぎるのが大変になりました。そんな中、突然、目を開けて物を見続けることができなくなりました。目をパチパチさせながらの生活、本もテレビも見られま

せん。買い物も大変になってきました。だんだんと私のもっていた慢性的なうつ症状（三年前の病気の後遺症で軽いうつ症状がありました）が、体に大きな影響を与えてきました。精神的に不安定になり、眠れない日々が続きました。

眠れない夜、何度も何度もイエス様がゲツセマネの園で悶え苦しんでいる姿が頭に浮かび、自分の苦しい姿と重なりました。人として苦しまれているイエス様の姿は胸に迫るものがありました。

「キリストは、…神と等しい者であることに固執しようとは思わず、か

えって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。」（フィリピの信徒への手紙2章6、7節）

今まで何度も聞き、語ってきたことでした。イエス様は人として、すべての人の罪の身代わりとなって苦しみを味わわれた方。神様の御心をおこなうためご自身を献げられた。私の胸に、神様とイエス様が一つとなる姿が見えました。

「ほかのだれによって、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。」（使徒言行録4章12節）

この経験を家族に人々に伝えたいとの願いが起り、一人ひとりのために祈るよう導かれました。

一年ほど経った時、長女が突然の入院手術をする事になりました。しかし、コロナ禍で会いに行くこともできない状況でした。

そんな中、訪問看護師さんとの会話の中でスマホの話が出ました。あ、そうだ、三人の子どもにもメールを送ろう。やっと送った言葉が「お母さんを助けて！」それ

をきっかけにメールのやり取りが続きました。そして、体調が少し良くなった私が、祈りと御言葉をもって娘を励ますことができたのです。

ある朝、私が読んだ聖書には「その方が雲に乗って来られる」（ヨハネの黙示録1章7節）とありました。そしてその日、娘と電話で話をした時に、この御言葉と、「自分の力に頼っている時には気づけないけれど、神様は苦しんでいる人の叫びを聞いて助けてくださる善なるお方だから、信じて神様にお委ねしよう」と伝えました。神様は約束のとおり、娘の入院中、社長、職場の同僚、小隊士官の皆さんの手を通して娘を支えてくださいました。

二〇二二年元旦、娘が元旦礼拝に出席して聞いた御言葉について電話をくれました。「神様は『泥沼からわたしを引き上げて』立たせてくださった。まさに私のことだね！」と。一月一日は私の誕生日でもあり、この電話は何にも代えられないプレゼントになりました。病を通して受けた苦しみが、家族の信仰の絆を結んでくれました。主の御名はほむべきかな。



## イースター（復活祭）とは

イースター（復活祭）は、キリスト教の中でとても大切な意味をもつお祝いの時です。

イエス・キリストは、神のひとり子でありながら、人間の赤ちゃんの姿でこの地上に来られました。成長して、30歳ごろから公生涯と言われる、多くの人の前での活動をなさり、病気の人を癒したり、死んだ人を生き返らせたり、神様の教え、神様の愛を宣べ伝えて歩かれました。人間の体をしていましたが、わたしたちと違うところは、罪を一つも犯さなかったことです。イエス様がこの地上に来られたことの目的は、わたしたちを罪から救う

ためでした。わたしたちを愛していたイエス様は、十字架にかかることによって、すべての人の罪を担い、身代わりとなって、血を流し、死なれたのです。しかし、三日目に復活されました。死に打ち勝って復活されたイエス様は、今も生きて働かれ、わたしたちと一緒におられるのです。

「そして、十字架にかかって、自らその身にわたしたちの罪を担ってくださいました。わたしたちが、罪に対して死んで、義によって生きようになるためです。そのお受けになった傷によって、あなたごたはいやされました。」（ペトロの手紙一 2章24節）

「イエスは言われた。『わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。』」（ヨハネによる福音書 11章25節）

十字架にかかって死なれたイエス様が、三日目に墓

創立者 ウィリアム・ブース 大將 ブライアン・ペドル (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 スティーブン・モーリス (救世軍本営 東京都千代田区)



世界をみつめて

〈米国〉トルコ・シリア大地震被災地への支援

2月6日(月)午前4時17分(現地時間)にトルコ南東部とシリアとの国境付近で発生した巨大地震により甚大な被害が発生し、余震も続いています。

米国の救世軍の国際支援機関SAWSO (Salvation Army World Service Office) は、人道支援団体「コンボイ・オブ・ホープ (Convoy of Hope)」と国際貨物運送会社UPSの協力を受けて、被災地の20のコミュニティに対して40万人分の食料と生活物資を支援することを決定しました。

この支援活動を支えるため、日本の救世軍ではトルコ地震救援のための募



コンボイ・オブ・ホープの倉庫に準備された支援品

金を実施しています。救世軍ホームページから寄付ページにお進みください、「トルコ震災救援」と入力してください。

〈ジョージア〉ウクライナから避難している子どもたちのウィンターキャンプ

厳しい冬が続く2月、ジョージアの救世軍はウクライナから避難している子どもたち100人のためのウィンターキャンプをおこないました。スキーリゾート地として有名なバクリアニで、子どもたちはスキーを練習したり、アートセラピーやダンス、手芸など様々な活動をし、また、聖書のメッセージを聞く時間をもちました。故郷を離れ、家や親族を失って困難な状況を過ごしている子どもや保護者たちの精神的負担が少しでも軽くなるように



願っておこなわれました。子どもたちは新しい友達をつくり、キャンプでの時間を楽しんでいました。



〈南アフリカ〉洪水被災地への支援

今年2月、南アフリカ共和国では豪雨による洪水が発生し、非常事態宣言が発せられました。国内9つの州のうち7州で災害が発生し、特にムプマランガ州と東ケープ州の被害が甚大でした。ムプマランガ州のNkomaziという都市にある救世軍の小隊(教会にあたる)では、洪水の直後に避難して来た50人ほどの方々に、休息の場所と食事を



提供しました。また、その後は自治体の協力を得て、地域の人々への食料や毛布、マットレスの配布もおこないました。

救世軍とは? What is The Salvation Army? 心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man

救世軍は、世界133の国と地域で活動するプロテスタントのキリスト教会で、国際本部は英国ロンドンにあります。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウィリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、東ロンドンのスラム街で困難な生活状況にある人々に助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。日本では1895(明治28)年に英国から士官(伝道者)たちが来日して、救世軍の働きが始まりました。

全世界で、救世軍はアルコールを飲まない生き方を積極的に推進しており、救世軍の兵士(信徒)はアルコールなしの生き方を選びます。これは創立以来の立場であり、アルコールの乱用が身体と精神に引き起こす多くの疾患、また個人のみならず家族や地域社会に及ぼす害を憂慮することから生まれたものです。アルコールなしの生き方もあることを、救世軍は示し続けています。救世軍の国際見解表明「アルコールと社会」はホームページで閲覧できます。

オンライン イースターコンサート 4月9日(日)午後5時 イースターの喜びをご一緒に! 救世軍公式YouTubeにて配信

酒害強調週間 3月26日(日)~4月2日(日) 新年度を迎える季節、歓迎会等での急性アルコール中毒の事例が毎年、後をたちません。また、少量の飲酒も健康に害を及ぼす可能性があることが近年の研究で明らかになってきています。アルコールは心身に害を及ぼし、依存症になる可能性を常に伴っていることを覚えてください!

救世軍公報 ときのこえ 発行日 福音版/毎月1日、広報版/奇数月15日 定価 福音版/1部40円、広報版/1部100円 (税込) クリスマス特集号(12月1日号)/1部100円 振替 00180-5-4400 発行兼 救世軍 印刷人 代表者 スティーブン・モーリス 編集人 山谷 真 発行所 救世軍本営 https://www.salvationarmy.or.jp 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 電話 03-3237-0881(代表) Mail jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org 印刷所 ピーアンドエス

聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会 救世軍は、旧統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。 【取り扱い支部】 救世軍への連絡をご希望の方は、以下の項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営(左記)、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。 ・私の近くの救世軍を紹介してください。 ・キリスト教についてもっと知りたいです。 ・『ときのこえ』の購読を申し込みます。 ・相談を希望します。